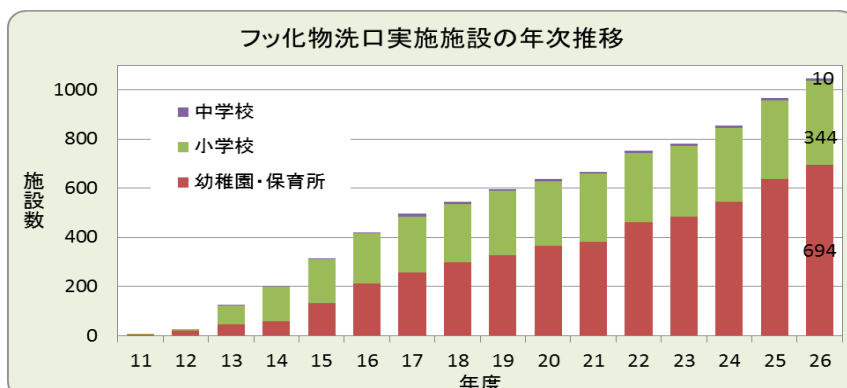
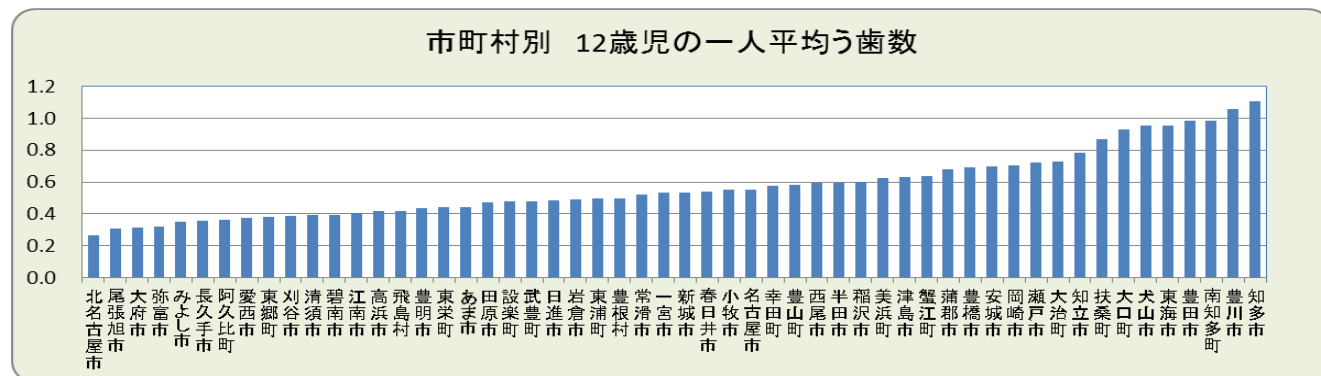
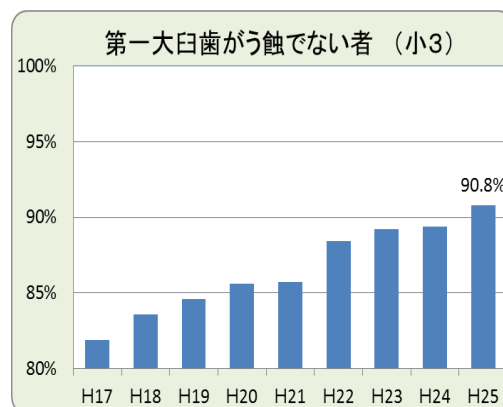
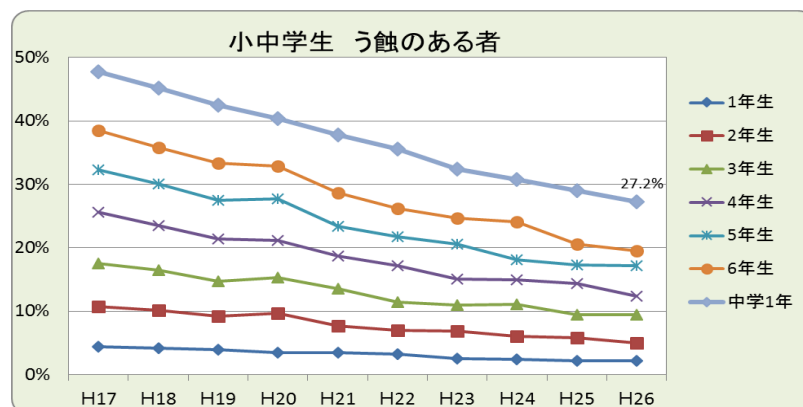


学齢期の歯科口腔保健

■ 歯科口腔保健基本計画における指標

基本方針	指 標	策定時	直近値 (H26)	目標値 (H34)
【疾】	小学校3年生における第一大臼歯がう蝕でない者の割合の増加	89.2%	90.8%(H25)	95%
	12歳児のう蝕のない者の割合の増加	67.6%	72.8%	77%
	中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	14歳 10.5%	5.1%	5%
		17歳 9.1%	4.6%	5%
	学校歯科医による健康教育を支援している施設の割合の増加	—	—	100%
	フッ化物洗口を実施している施設の割合の増加(幼・保、小・中学校)	25.1%	33.3%	40%
【環】	給食後の歯みがきを実施している施設の割合の増加(小・中学校)	小学生 78.3% 中学生 22.5%	73.0% 24.2%	100% 35%
	12歳児の一人平均う歯数が1.0本未満である市町村の増加	77.8%	96.3%	100%
	フッ化物洗口を実施している施設の割合の増加 (再掲)	25.1%	33.3%	40%



主な課題等

- 学齢児期のむし歯は改善しているが、県内市町村間においては格差がある。
- う蝕予防に効果のあるフッ化物の応用（フッ化物歯面塗布、フッ化物配合歯磨剤、フッ化物洗口）を推進する必要がある。
- 歯肉炎予防のためには、適正な歯みがきの実施が不可欠である。小中学校における給食後の歯みがきの実施を推進する必要がある。

課題に対応するための新規・重点的事業

● 地域歯科保健活動支援事業

（１）学齢期歯科保健活動支援

学齢期におけるう蝕予防及び歯肉炎予防のための普及啓発活動を支援する。

（２）フッ化物洗口推進支援

幼稚園・保育所及び小中学校における集団フッ化物洗口の適正かつ効果的な実施に向けた支援活動を行う。

● 地域歯科保健評価事業

地域における歯科保健活動、歯科保健状況等の情報を収集し実態把握するとともに評価・分析・還元を行う。

[関連する主な歯科保健データ]

フッ化物洗口実施状況報告、地域歯科保健業務状況報告（児童・生徒関連データ）

● 地域歯科保健課題対応事業

地域における歯科保健状況の実態を踏まえ、地域の歯科口腔保健の課題に対応した取組を実施する。

＜28年度予定事例＞

・園児期・学童期におけるう蝕対策の推進

● 歯科口腔保健推進研修事業（国庫 8020 運動推進特別事業）

歯科専門職及び地域関係者等の資質の向上と連携を促進するための研修事業を行う。

● フッ化物洗口事業の評価・分析にかかる整備（健康対策課）

その他継続する事業・取組

○ 第一大臼歯保護育成及び歯肉炎予防の普及啓発

8020達成の要の歯である第一大臼歯の保護育成及び歯肉炎予防のための啓発の推進。

リーフレット「こんにちは！6歳臼歯」、「みんなで守ろう！ぼくの・わたしの・永久歯」、

「Check&Try!歯肉炎」の活用。